

西村クリニック便り 第132号

発行元 四條畷市楠公 1-14-6 ☎072-862-3001

芥川龍之介の有名な作品に「蜘蛛の糸」というお話があります。ある日お釈迦様が極楽を散歩中に蓮池を通して地獄を覗き見したところ、多くの苦しんでいる罪人たちの中に韃陀多（カンダタ）という男を見つけました。韃陀多は放火や殺人も犯した泥棒でしたが、過去に一度だけ良いことつまり踏み殺しかけたクモの命を助けたことがありました。お釈迦様はそれを思い出し、彼を地獄から救い出してやろうと一本のクモの糸を韃陀多にめがけて降りました。この糸を見た韃陀多はこの糸を登れば地獄から出られると糸につかまり登り始めました。ずいぶん登ったところで疲れてふと下を見下ろしますと、たくさんの罪人たちが自分の下から続いて登ってくるではありませんか。このままでは重みで糸が切れてしまうと思った韃陀多は下に向かって、「この糸はおれのものだぞ、お前たちは皆降りろ」と大声で叫びました。がその途端クモの糸が韃陀多の真上でちぎれ、韃陀多は再び地獄に落ちてしまうというお話です。この話は結局自分だけが助かれればいい、自分さえ良ければいいんだという人間の心の根底にある利己主義というものに鋭く踏み込んだものであります。

さてこのお話を読んで果たして人間は本当にクモの糸にぶら下がれないだろうか考えた方がおられます。奈良医大の名誉教授の大崎茂芳さんという方です。大崎先生はクモの採集を趣味にしておられましたが、このお話のようにクモの糸に人間がぶら下がれないかと考えました。そしてクモの糸を大量に採取し 19 万本のクモの糸を束ねてロープを作り、それにハンモックを吊してそのハンモックに乗ることに成功しました。更にはテレビ番組で 2 トントラックに人間 6 人が乗りクモの糸で引っ張るといふ実験もされ、クモの糸の強度が想像以上に強いことを実証されたのであります。大崎先生はある日体調を崩して入院されましたが、入院中病室内でふと流れてきたロシア民謡「山のロザリオ」のバイオリンの音色を聴きクモの糸でバイオリンが出来ないかと思いつき、何年も研究してクモの糸を束ねてバイオリンの弦を作ることに成功されました。その音色は従来のスチール製の弦と異なり丸みのあるソフトな音色であり、大崎先生はこのクモの糸で出来たバイオリンについての論文を発表され、更には国際学会で講演した後クモの糸で作ったバイオリンを演奏して聴衆を魅了し拍手喝采を受けたそうです。さて世の中にはいろんな人がおられますが、私の様な凡人にとっては「蜘蛛の糸」を読んでも面白かったなあと思うだけでありますが、この物語を読んで実際にクモの糸にぶら下がってみようと考えたり、更にはクモの糸でバイオリンを作れないかといった奇想天外な発想をできる人がこの世におられるということに私は脱帽したのであります。

院長 西村 章

年末年始のお休みのお知らせ♡

12月29日（月）の午前診まで診察を行っております

12月30日（火）～1月4日（日）休診です

12月17日（水）午前診10：30までです

午後診はいつも通り16：00からです

受付を募集しております 週2・3日の勤務です 残業なし シフト制 土曜日・午後診も勤務できる方 手書き履歴書をご持参ください まずはお気軽にお問合せください♪

編集後記

お外の猫にお家を作ってあげる季節になってきました

我が家ではカイロと毛布でホカホカです♡

